

第 253 回 昭和の森観察会

冬の野鳥のくらしを観察しよう

藤田浩二（茂原市）

日 時： 2013 年 1 月 13 日（日） 13 時～15 時 天候： 晴れ
参加者： 36 名（大人 33 名 子ども 3 名） 指導員： 16 名
担当指導員： 木下順次 田辺裕美 藤田浩二

連日の寒さもやわらいだ晴天の中、3 班に分かれておこないました。観察コースは、1・2 班が東屋→市町村の森→梅林→お花見広場→下夕田池→ハナショウブ園→東屋とし、3 班は逆コースとしました。参加者のなかには、当野鳥観察会が 2 回目、また日頃昭和の森で野鳥を観察されている方も多く、野鳥への関心の高さが感じられました。なお、児童を伴ったご家族は 1 班にまとまってもらい、児童専用のスコープを確保するようにしました。

解説のポイントは、野鳥の「衣」「食」「住」を知ってもらうこととしました。まず各班で出発前に、「冬に野鳥の観察がしやすいわけ」を衣・食・住との関連があることを説明してから、観察コースを巡りながら、観察する各野鳥の行動を観察しながら、随時解説することとしました。

本番で観察できた種類は、ルリビタキを除き下見で確認できた種類は確認できましたが、今回の解説ポイントである「混群」が、下見で確認できたのに本番で確認できなかったことは少し残念でした。やはり生き物の行動は思い通りにならないものです。

桜広場では、ウソの♀が桜の花芽をついばむ姿が観察でき、木の下には花芽の食べカスがたくさん落ちていました。またクロガネモチ木の赤い実にはムクドリが群がっていて、野鳥の種類によって餌の好みの違うことがよく観察できました。

参加者の感想は、「鳥の見方がわかってきた」「多くの種類が観られてよかった」「お目当ての〇〇が見られてよかった（リピーター）」「〇〇の鳥を覚えられた（初参加）」「野鳥の餌にもいろいろあることが分かった」等でした。



樹上のウソ

観察できた野鳥は下表のとおりでした（声のみも含む）。

メジロ	シジュウカラ	シロハラ	アカハラ	キジバト
ウグイス	ウソ	ハシブトガラス	アオジ	ヒヨドリ
キセキレイ	ハクセキレイ	ムクドリ	ツグミ	モズ
エナガ	シメ	ジョウビタキ	コゲラ	ルリビタキ
トビ	ワシタカ類 sp.	ゴイサギ	アオサギ	カルガモ
カイツブリ	マガモ	オオハクチョウ	カワウ	ホシハジロ
オオバン	オシドリ			